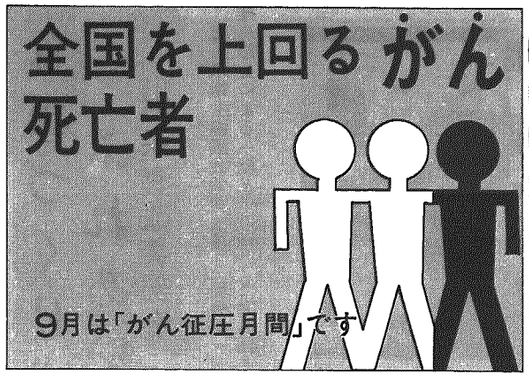

■ 3年連続死亡原因のトップ

9月は「がん征圧月間」です。検診を受けて早期に発見しましょう。

現在、死亡原因の第1位が「がん」となっています。昭和58年は全国で17万6,174人がこの病気で亡くなっています。がん死亡者の全体に占める割合は23.8%。亡くなる人のほぼ4人に1人が、がんが原因です。

横越村もその例外ではありません。昭和56年から3年連続がんによる死亡者がトップです。昭和58年は、54人の死亡者の中で17人ががんで亡くなっており、31.5%をしめ、全国平均を大きく上回っています。

■ がんは治る

自覚症状がほとんどないままに体内にはびこっていくがん。そのため、発見されたときには手おくれ、ということが多かったのも事実です。しかし、それはもう昔の話。

国立がんセンターの報告によれば、昭和o2年から57年の間に同センターを訪れたがん患者の生存率は51.7%。つまり、がんにかかっても半数以上の人が助かっているといえます。

また、早めに発見して適切な治療さえ行えば、ほぼ100%治ってしまうがんもあります。

■ 検診を受けよう

レントゲン、内視鏡など検診技術の進歩で、いろいろながんが早期に発見できるようになりました。もうがんは、ただちに死を意味する病気ではありません。

しかし、検診や治療の方法がいくら進歩しても、みなさんが検診を受けなければ「早期発見、早期治療」に結びつきません。あらゆる機会を利用して検診を受けましょう。

連与給 立看板で交通安全呼びかける
―村内40カ所に設置―

「なれた道、ゆだんすれば こわい道」「せまい道、並んで歩くなふざけるな」など、交通事故防止を呼びかける立看板が村内の交通要所と危険箇所に設置されています。

この立看板、横越村給与所得者連盟（委員長 本間一人）が、通勤・通学者をはじめ、地域住民に交通安全を呼びかけるため同連盟の七つの支部がそれぞれ趣向をこらし、標語を考え、文字を書き、村内四〇ヵ所に設置したもの。

村内にいち早く設置した木津支部の人たちは、「標語を考えるのに苦労し、交通安全標語コンクールの作品の中から地域に合ったものを利用させていただいた。部落の人たちから一人でも多く交通安全意識をもっていただき、事故にあわない、起さないよう願いたい」と話していました。

マドワーズ二連勝
第3回壮年野球大会

第三回壮年野球大会（体育協会主催）が八月十九日、参加八チームによって熱戦がくりひろげられ昨年の覇者マドワーズが逆転勝ちし、二連勝を飾りました。

壮年野球大会は、四十歳以上が資格要件で、最年長者は五十八歳。壮年といえども早起き野球大会や、村民野球大会に出場している現役選手も多く、随所に好プレーが続出していました。

決勝戦は、昨年と同じ顔ぶれの第一回大会優勝者のロートルズと昨年優勝のマドワーズ。四回まで3―2でリードされていたマドワーズは、五回表満塁押し出しとヒットで2点をあげ逆転し、そのまま逃げ切って二連勝をしました。

ロートルズは、三回まで毎回1点ずつをあげ、逆転に成功したものの、その後加点できず、逆に逆転を許してしまいました。

9月15日敬老会
九〇〇人余りが招待

九月十五日は敬老の日、村内五会場でお年寄りの長寿を祝う行事が予定され、九〇〇人余りが招待されます。

長寿ベストテン（S59・8・20現在）

清野	ヒノ	94歳	沢海上
川口	賢龍	90歳	沢海上
原	マツノ	90歳	二本木中
南場	トミ	89歳	木津上
神田	孝一	89歳	横越中
二野宮	キノ	89歳	沢海上
五十嵐	タミ	89歳	沢海中
阿部	春吉	89歳	木津中
原	テル	89歳	二本木上

お知らせ

巡回心配ごと相談
9月16日
横越 神田勇民生委員宅

9月保健衛生業務予定

日	曜	時間	内容	対象者	会場	対象
18	火	午前 9.30～	離乳食講習会	59年4月、5月生れ	横越村公民館	全村
19	水	午後 1.30～	乳児検診	58年9月、59年2月、6月生れ	〃	〃
26	水	午後 1.30～	3才児検診	56年2月、3月、4月生れ	〃	〃

おめでた

(7月届)

新生児	親名	地区
神田 能典	升雄	沢海下
金川 明佳	修	横越上
加藤 秀美	充	二本木中
小林 勉	繁司	横越中
小林 敏彦	〃	〃
加藤美香子	喜作	川根谷内
阿達 沙世	一郎	二本木中
大橋 卓磨	勝弘	木津上
小嶋 花奈	善晴	小杉上
服部 淳	秀明	沢海下
野沢真奈美	忠雄	川根谷内
酒井亜矢子	共幸	木津下
阿部 水耶	由幸	駒込
神田 英樹	正一	横越中
渡辺 麻実	等	二本木中
佐藤 祐	藤一	小杉中
藤崎 利恵	健治	二本木下

おめでとう

(7月届)

新郎新婦		地区
「森谷」馬場 スミエ	幸栄	新潟市中小杉中
「阿部」立川 孝子	裕司	新潟市二本木中

おくみやみ

(7月届)

故人	年令	地区
横野トミイ	56	小杉中
佐々木チヨノ	47	小杉上
佐藤 忠吉	81	二本木下
内山 トシ	59	駒込
飯野 ヤマ	75	二本木中
山崎 謙吉	81	小杉下
渡辺 実	72	川根谷内
佐藤 祐	0	小杉中

退職者医療制度
10月1日から発足

国民健康保険に昭和五十九年十月一日から新しく退職者医療制度が発足します。退職者本人と働いている人たち。それに事業主が費用を出し合って負担を軽くするというのがこの制度の考え方です。

この制度の対象となる人は、現在国民健康保険に加入している人で被用者年金を受給している人（年金保険の被用者等であった期間が原則として二十年以上であるか、または、四十歳以後の期間が十年以上である人）およびその被扶養者の方です。

ただし老人保健制度の対象となる人は除かれます。

退職被保険者及び被扶養者の方が昭和五十九年十月一日以降、病院や診療所で診療を受ける際に、現在お持ちの国民健康保険被保険者証とともに退職被保険者等証明書（役場で発行）を提示した場合には、窓口で支払う自己負担額がこれまでの三割から次のように軽減されますので、病院などに行かれる場合には忘れずにお持ちください。

退職被保険者本人（外来二割 入院二割）
被扶養者（外来三割 入院二割）

退職者医療制度について不明な点がある場合には、役場国保係まで、お問い合わせください。

恩給の加算改定
請求はお済みですか

現在、恩給を受け取っている六十歳未満の妻子や傷病恩給受給者などを含む）の恩給年額を計算するときに実際に勤務した年数に戦地勤務などの特殊な勤務を行った場合の在職年の割り増年数（加算年）を算入しています。

この加算年の算入をすることによって、恩給年額が増額される場合があります。

昭和四十八年十月一日前に恩給を裁定された方で、まだこの加算年算入の請求手続きをしていない方は、退職当時につとめていた役所（旧軍人関係の方は本籍地（終戦時）のある都道府県旧軍人恩給担当課）にご相談ください。

なお、加算改定の対象は、昭和四十八年十月一日前に裁定された恩給であり、旧軍人普通恩給の場合は、次の証書記号番号のものです。（再交付の場合を除く。）

（記号）	（番号）
りい	八〇七三三六号以前
りい仙	一一六三七六号以前
りい東	二五七五五一号以前
りい長	五四〇四八号以前
りい金	三五三六三号以前
りい徳	一〇三四四七号以前
りい広	七九七一七号以前
りい熊	一六七〇一五号以前
かい	一六二六六三号以前
かい金	一一〇〇五九号以前

□歳時記□ かかし

みのとかさをつけ、弓矢を持って田んぼに立っているかかし。今ではほとんど見られなくなった懐かしい風景です

ところで、かかしはなぜ一本足なのでしょうか。「日本カカシ研究会」では次のように話しています。

「いくらスズメだって、いつも同じ場所に立っていたのではかかしと分かってしまいますよ。それで篤農家は毎日かかしの場所を移動させたものです。そのとき、抜きやすく次の場所にも刺しやすいので一本足になったのです。でも、近ごろのジーパンかかしやミニスカートのかかしには二本足のもありますよ」

最近は、かかしの代わりに光るテープや爆音器を使って光や音でスズメを脅すことが多くなりました。

人形を使わずに鳥や獣を脅す方法は古くからあり、音を立てる鳴子、また、カラスの死体や動物の皮の腐ったにおいで脅す方法もありました。においをかがせて脅かす――この〝かがす〟が、かかしの語源だという説もあります。

かかしと言わず、かがしと濁って言う地方があるのはそのせいかも知れません。

その昔、人形のかかしは農民の身代わりとして神格化されていました。古事記に「この神は足は行かねど、ことごとに天下のことを知れる神なり」とあるのは、久延毘古（くえびこ・こわれた男のことで「崩え彦」）で、かかしのことだといわれています。